

令和3年2月10日

令和2年度後期「授業公開及び参観」実施状況報告

FD委員会付 授業評価・授業公開実施部会

1 実施結果

(1) 実施期間 令和2年11月16日(月)～12月4日(金)

・実施要項(令和2年6月12日施行)に沿って実施

| | 令和2年度前期及び後期 (2020年度前期及び後期) | 平成31年度前期及び後期 (2019年度前期及び後期) | 備考(対比) |
|---------------------|--|---|--------|
| 実施期間 | 前:7/20(月)～8/7(金) 後:11/16(月)～12/4(金) | 前:7/1(月)～7/19(金) 後:11/11(月)～11/29(金) | |
| 各学部等への実践 教員選定依頼日 | 前:6/24(水) 後:9/30(水) | 前:6/6(木) 後:9/19(木) | |
| 報告期限(当初) | 前:7/3(金) 後:10/16(金) | 前:6/14(金) 後:10/4(金) | |
| 参観教員申込期限 (当初) | 前:7/13(月) 後:11/2(月) | 前:6/26(水) 後:11/1(金) | |

(2)「授業公開及び参観」実施授業、及び参観教員数 8頁参照

| | 令和2年度前期及び後期 (2020年度前期及び後期) | 平成31年度前期及び後期 (2019年度前期及び後期) | 備考(対比) |
|-----------------------------------|---|--|-----------------|
| 授業公開科目数 | 美術・院 合計10 (前:4 後:6) 音楽・院 合計15 (前:5 後:10) 全学 合計3 (前:2 後:1) | 美術・院 合計11 (前:6 後:5) 音楽・院 合計10 (前:3 後:7) 全学 合計2 (前:1 後:1) | |
| 授業公開した教員 数の割合(年間) ※公開者数は実人数 | 37.8%(28/74) 美術 27.3%(9/33) 音楽 50.0%(15/30) 全学 50.0%(4/8) 研究所 0%(0/3) | 32.9%(23/70) 美術 35.5%(11/31) 音楽 35.7%(10/28) 全学 25.0%(2/8) 研究所 0%(0/3) | 教授、准教授、講師、助教を対象 |

| | | | |
|-----------------------------|--|---|-----------------|
| 参観した教員数の割合（年間） ※参観者数は実人数 | 66.2% (49/74) 美術 69.7% (23/33) 音楽 60.0% (18/30) 全学 75.0% (6/8) 研究所 66.7% (2/3) | 50.0% (35/70) 美術 67.7% (21/31) 音楽 28.6% (8/28) 全学 62.5% (5/8) 研究所 33.3% (1/3) | 教授、准教授、講師、助教を対象 |
| (内訳) | (前期) 41.1% (30/73) 美術 39.4% (13/33) 音楽 34.5% (10/29) 全学 62.5% (5/8) 研究所 66.7% (2/3) | (前期) 35.7% (25/70) 美術 48.4% (15/31) 音楽 17.9% (5/28) 全学 50.0% (4/8) 研究所 33.3% (1/3) | |
| | (後期) 55.4% (41/74) 美術 60.6% (20/33) 音楽 53.3% (16/30) 全学 50.0% (4/8) 研究所 33.3% (1/3) | (後期) 34.3% (24/70) 美術 45.2% (14/31) 音楽 17.9% (5/28) 全学 50.0% (4/8) 研究所 33.3% (1/3) | |

(3) 「実践レポート」及び「参観レポート」について 9頁参照

2 総括

前期「授業公開及び参観」と同様約3週間にわたって実施した。今期は新型コロナウイルスの感染拡大防止として三密を回避することを前提に、対面授業の公開も可とした。選定された科目数は前期よりも6科目増え17科目であった。実践教員の数は年間を通して全体の37.8%となり、実施要領記載の「年間を通して3分の1」程度とする目標を達成できた。1科目以上参観した教員数は、本学教員74人中41人で、全体に対する参観率は55.4%となり、前期(41.1%)よりも増加した。年間を通して参観率を比較すると、今年度は66.2%の教員が1科目以上参観し、昨年度(50.0%)よりも積極的な参観がなされた。

ただし、専攻によって実践率や参観率にばらつきが見られた。次年度以降は全専攻が実践すること、あわせて参観率を向上させる必要がある。

以上の結果およびレポートの内容を踏まえて、部会では以下の意見が上がった。

(1) 参観教員数について

前年度後期→今年度前期→今年度後期と、徐々に参観者数が増加している。今年度後期は、1科目以上授業を参観した教員数は半数を超えた。平成27年度から始まった「授業公開及び参観」が定着してきたことがうかがえる。また、事務局から適切なタイミングで連絡が行われたことも参観を促したと考えられる。加えて、今年度は、コロナ禍があり、三密を避けながら対面で授業

を行う工夫や効果的な遠隔授業の実施方法を共有したいというニーズが高かったのではないかと推察される。

(2) 遠隔授業の公開及び参観について

前期は初めて遠隔授業を対象とした公開及び参観を実施したことから、どうやって授業公開や意見交換を行ったらよいかわからないという戸惑いの声が聞かれた。前期の実施状況を踏まえて運用を改善した結果、後期は遠隔授業の公開及び参観もおおむねスムーズに実施され、特段大きな問題は生じていない。教員が遠隔授業に慣れてきたことも大きいと思われる。

3 課題と改善案

(1) 参観教員数の向上にむけて

- ・次年度始めにFD委員会庶務から対象教員へ周知する。

前期授業公開及び参観期間(案)：令和3年6月14日～令和3年7月2日

後期授業公開及び参観期間(案)：令和3年11月15日～令和3年12月10日（※期間内に推薦入試が行われるため、1週間延長）

(2) 参観者数の偏りについて

事務局より教授会日程を避けて公開科目を選定するよう注意を促したり、参観申込み締切り後に再度FD委員等に参観を呼びかけたりした結果、すべての公開科目で1名以上の参観があった。今後も、参観人数がゼロとなる科目がないよう、運用上の工夫を継続していくことが望ましい。

(3) 実技系科目の授業公開方法について

実技系科目は、学生の進捗に応じた指導となるためシラバスの計画通りに進まない、それまでの授業での積み重ねが参観者に伝わりにくい、普段270分で進めているところを授業公開のために90分で区切る必要があるなど、授業公開にあたって様々な難しさがあることが指摘された。今後、実技系科目にふさわしい授業公開及び参観の方法を検討していく必要がある。

4 事業運営に係る特記事項

- ・両学部教授会の日には授業公開を避けるよう事前連絡を行った。
- ・実践教員が安心して授業公開に臨めるよう、具体的な公開方法を例示した。
- ・教員からの参観申込は、当初11月2日の期限を設けたが、参観したい授業科目への直近（前々日）申込に対応した。
- ・両学部教授会にて、公開科目の周知及び参観呼びかけを行った。
- ・公開の前日までに学科室に事前連絡して、円滑な実施に対応した。
- ・実施報告を整えるように各様式をExcelファイルで提供した。

以上